

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

めまぐるしく変革している社会で、子どもたちが豊かな人間性と社会性を育み、学ぶ力の育成とキャリア形成をはかり、子どもたちの夢がかなえられる学校

- 1 幼児児童生徒の一人ひとりを大切に、安全に安心して学ぶことができる学校
- 2 幼児児童生徒の学ぶ力の育成とキャリア形成をはかり、子どもたちの夢がかなえられる学校
- 3 教職員が聴覚障がい教育を中心とした支援教育の高い専門性を継承し、働きがいのある学校
- 4 地域や地域の学校園とのつながりを深め、センター的役割の推進を通して地域に貢献するとともに、地域に開かれた学校

めざす幼児児童生徒像

【 豊かなコミュニケーション 自ら学ぶ力 夢に向かってチャレンジ 】

## 2 中期的目標

1. 学校全体が人権尊重の意識を高く持ち、地域や保護者と連携しながら、安全で安心して学べる学校づくりを進める。
  - (1) 関係機関等と連携し、安全に対する教育や防災に関する知識を高めるとともに、子どもたちが危機に対し自ら回避できる能力を育む。
  - (2) 教職員の豊かな人権感覚・人権意識による教育実践を組織的に進め、多様性を認め、自尊感情豊かな子どもたちの育成に資する。
  - (3) 感染症対策や熱中症対策などをすすめて、全ての子どもが安全に安心して活動できるよう、健康安全体制を充実させる。
2. 子どもたちの学ぶ力の育成とキャリア形成をはかり、変革する社会で生き抜く力を育む。
  - (1) 将来の自己実現をめざし、早期から一貫したキャリア教育に取り組み、自主性・社会性を育むとともに、自らの学びを他校や地域社会へ情報発信する力を育む。  
☆児童生徒アンケートで「他校や地域との交流や発表が楽しい、世界が広がった」の肯定率を令和7年度までに80%以上にする。(R4 80% R5 81%)
  - (2) 「わかる授業づくり」を進め、基礎学力の定着を図るとともに、知的好奇心を刺激し、子どもたちの学びへの意欲の向上を図る。  
☆児童生徒・保護者アンケートで、「見てわかる授業の満足度」の肯定率を令和7年度までに85%にする。(R2 73% R3 69% R4 79% R5 82%)  
☆(1)(2)の取組みを通して子どもの学校生活での満足度(学校生活、授業、学校行事、進路等)を令和7年度までに82%以上にする。  
(R2 76% R3 76% R4 82% R5 85%)

※学校経営推進費事業をR4年度から3年間受ける。事業名：「つながろう みんなと 飛び出そう 社会へ」 ☆マークは学校経営推進費に関連する取組みや目標  
事業費総額：398万円 導入物品等：電子黒板機能付き短焦点プロジェクター、コミュニケーションロボット、大型スクリーン、動画編集ソフトなど

3. 聴覚障がい教育を中心とした教員の専門性の向上を図る。
  - (1) 子どもたちの自ら学ぶ力を伸ばすために、研修や校内研究を充実させ、聴覚障がい教育を中心とした支援教育全体の専門性の向上をはかる。
  - (2) 1人1台端末の有効な活用をめざし、教職員のICT活用のための研修を計画的に行い、活用に関わる知識や技能を向上させる。  
教職員アンケートで、「ICT機器活用力」の肯定率を、令和6年度までに80%以上にする。(R3 62% R4 78% R5 77%)
  - (3) 働き方改革を推進し、校務の効率化をめざす。働き方の多様性を認め合い、教職員が助け合いいきいきと働ける職場づくりを進める。
4. 地域や地域の学校園とのつながりを深め、聴覚障がい教育支援センター的役割の推進を通して地域に貢献するとともに、地域に開かれた学校づくりを進める。
  - (1) 聴覚障がいに関する多様な相談に対して適切な支援を行い、連続性のある学びの場の確保のために、乳幼児期からの支援体制を充実する。
  - (2) HPや研修、相談支援などにより、聴覚障がいの理解についての啓発活動を推進する。
  - (3) 防災に関わる取組みについて地域の学校園等と情報交換し連携を強める。SDGsや防災の取組み等を地域に発信し、共に取り組むコミュニティを形成する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 5年 12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○教職員アンケートの結果：回答率 98%</p> <p>昨年度、肯定率はかなり高くなっていて、更に肯定率を上げたものと、横ばいまたは下げたものに分かれた。新型コロナ感染症の5類移行に伴い活動制限がなくなる中で、教職員が、子どもたちがよりよい教育について再検討し、努力研鑽を行ってきた結果と考える。【肯定率を大きく上げた】教育活動の評価を次の計画に生かす…84%(+9)防災・安全指導…96%(+5)【肯定率が高い】学校行事の工夫・改善…96%(+6)障がい理解と自身の手話技術の向上…97%(+3)</p> <p>【肯定は高いが、率を下げた】子どもたちの進路選択への指導…86%(−3)誤差の範囲にとらえる。教育相談体制の整備と担任以外の教職員とも相談できる…75%(−7)少人数のクラスが増えた結果、担任と密につながることが多く、担任が相談窓口になったと思われる。</p> <p>【昨年からの課題】視覚支援やICT機器の活用…77%(−1)質問に「昨年より」と入っていることで伸びが減少したのではないかと。ICT機器やタブレットの活用は確実に増えている。今後も積極的に取り組む。</p> <p>管理職と教育活動について話す機会…66%(+2)今後も教職員と話す機会を作り、ともに進める学校運営を意識していく。</p> <p>○保護者アンケート：回答率 64%</p> <p>昨年度肯定的評価がとて高くなったので、一部肯定率を下げたものもあるが、80%を超えているものが多く、日頃から教育活動にご理解をいただいていたことが伺える。課題と考えるのは、タブレットの活用64%(−3)タブレットの家への持ち帰りは一部でしか行っておらず、タブレットを用いた家庭学習ができるよう取り組みを進める。授業が楽しい・わかりやすい、将来の進路や職業に関する指導の</p>	<p><b>第1回(6月29日)【学校経営計画について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後、いろいろな人と共に働くという点から考えると、一般の学校との交流に加えて、いろいろな障がい者と交流する機会も作る必要がある。</li> <li>・経営計画から、生徒や保護者のアンケートの結果を指標にて次の年度の活動に反映しているのはとてもわかりやすい。保護者、生徒に寄り添うという気持ちが強く伝わる。</li> <li>・話し合い活動は、教員がサポート役で児童生徒が主体で進めており、学習形態がよくなっている。</li> <li>・教職員のリテラシーを高める教育の成果が出ていると感じる。引き続きお願いしたい。</li> </ul> <p><b>第2回(10月27日)【学校経営計画中間報告について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ問題についてよく理解して実行している。成果や課題の具体的説明がほしい。</li> <li>・防災等は聴覚支援校の専門性を生かした避難の方法を工夫することも大事。</li> <li>・ICTを活用する際には、書き言葉や論理性が必要になるので、子どもたちのリテラシー向上が必要である。アプリ等を活用しながら、子どものリテラシー力を伸ばしてほしい。</li> <li>・板書や教員の質問方法、子どもの意見の引き出し方等授業のベーシックなスキルの研修も必要。</li> <li>・自立活動プログラムや観点別評価に関して、協力的に進め効果的な活動を進めてほしい。</li> <li>・生徒が減っている。危機感をもって戦略を考えてほしい。</li> </ul> <p><b>第3回(2月22日)【学校教育自己診断・R5学校経営計画評価・R6学校経営計画案について】</b></p> <p>学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結果については、学部に分けて分析してみてもどうか。</li> <li>・教育活動をよくするためのアンケートなので、結果を学部に戻して、次年度に活かしてほしい。</li> <li>・肯定的評価の高さで分析しているが、教員の専門性や一人ひとりの子どもとの関わりを考えた時は100%をめざすことも大切ではないか。否定的な率をどう受け止めるかという活用方法も大切。</li> <li>・参観や行事では、成長した子どもの姿や作品は素晴らしい。仕事等の関係で、通常の授業参観に来</li> </ul>

府立中央聴覚支援学校

<p>項目は、どちらも 77%で横ばい状態なので、引き続き保護者理解が得られるよう取り組みを進めたい。</p> <p>○児童生徒アンケート：回答率 96%</p> <p>ほぼ全ての項目で肯定が伸びている。子どもたちも充実した活動を送れているのがうかがえる。肯定率を下げたものもあるが、わからないという回答が増えた影響が考えられる。昨年課題となった学校へ行くのが楽しいの項目は 82%(+8)と肯定率を戻した。学部や学年ごとによる特徴を分析したところ、小学部5、6年生が、学校に行くのが楽しいと授業がわかりやすいの項目で、肯定率が低い(60~63%)ことが分かった。またいじめや困っていることに真剣に話をきいてくれるという項目も 67% (全校は 74%) であった。思春期を迎える前段階において、自我の目覚めとそれに伴う周囲の人との関係の変化や葛藤、授業内容が難しくなっていく中での学習意欲をどう高めるか、年度途中で担任が変わるなどにより相談しにくかったなどの原因が考えられる。今後も、子どもたちの気持ちや不安を聞き、子どもたちに寄り添い一緒に考える姿勢を大切にしていきたい。</p>	<p>られる保護者が少ないため、教員の配慮が保護者に見えにくいのではないかと。</p> <p>【R5 学校経営計画評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生の追跡のフォローをどう進めているのか。大学に入りやすくなった反面、大学を辞めたいという相談も増えている。大学での配慮は、情報保障に加えて支援コーディネーターとも連携したさまざまな支援が必要ではないか。</li> <li>・字幕で読むという行為は、話すことを読み取って理解するのに時間がかかる。それを乗り越えて初めて授業についていけるので、進学をめざす生徒にはそれに似た取り組みで力をつける必要がある。</li> <li>・教員の授業力として、チョークの使い方やプリント掲示の方法など、聴覚支援のクラシックな授業が伝わるよう、経験の高い教員のモデル授業を行う方が良い。</li> <li>・ICT 活用の技術は若い先生方が持っている。効果的な活用してほしい。</li> <li>・みみネットは、途中で他の学校に転出した人にも送って、情報を伝え、つながり続けたほうが良いのではないかと。</li> <li>・聴覚支援学校の子どもの数は、全国的にも減少。高等部が中学校を回るだけでなく、全校的に聴覚支援の在り方を考えていってほしい。</li> </ul> <p>【R6 学校経営計画案】 内容についての説明を行い、了承された。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4 年度値] ⑦：アンケートの略語 (自)：学校教育自己診断の略語 ☆経営推進費に係る取組み	自己評価
1	安全安心な学校づくり	<p>(1) ア 実践的な避難訓練と防災学習 子どもたち主体の安全推進活動。</p> <p>イ 保護者と連携した訓練の実施。</p> <p>(2) ア 豊かな人権感覚醸成のための教職員研修を3回実施。</p> <p>イ 人との関りを通して多様性を認め、行事等をやりきることで自尊感情が豊かになるよう取組みを進める</p> <p>ウ 日常の観察や生活⑦で子ども同士の関係を察知し、早期に対応する。</p> <p>(3) ア 外部人材を活用した専門的な講座で子どもたちの学びを深める。子ども間での保健の啓発活動。</p> <p>イ 教職員の実践力向上の訓練。</p>	<p>(1) ア 実践的な避難訓練2回 防災学習の充実 ア 子どもたちによる安全推進活動の実施 ア 子ども⑦で「安全意識の向上」 86%[84%]</p> <p>イ 授業参観日に、引継ぎマニュアルの流れに沿った保護者との訓練の実施</p> <p>(2) ア 教員の人権研修3回実施 [3回] ア (自)「人権尊重の教育」95%以上維持 [99%]</p> <p>イ 各学部の生徒会活動や道徳や特別活動などで取り組む</p> <p>ウ 生活⑦を2回実施、個別懇談で対応 [2回]</p> <p>(3) ア 薬物乱用防止、薬の使い方講座などを3回以上実施する [3回]</p> <p>ア 子どもが主体の保健指導や発表を2回行う</p> <p>イ 実践的訓練を7回以上行う [7回]</p>	<p>(1) ア 火災避難では煙中避難体験と発災場所を放送で確認して避難。地震避難では津波対応の2次避難を実施。備蓄食を活用した炊かないご飯づくり体験を実施。【◎】 ア(小)児童による安全点検と危険個所にクッション材を貼る活動。(中・高)他学部に向けて生徒が主体となる安全啓発活動実施。【○】 ア 子ども⑦88%【◎】 イ 6月に引き渡し訓練実施。【○】</p> <p>(2) ア 教員人権研修を3回実施。聴覚障がい者の「労働上の人権問題」と「LGBTs」研修各1回。「支援学校における集団づくり」1回。具体的な事例から学校での支援の大切さを実感。 教員(自)99%【◎】 イ (小)児童の実態に合わせて、道徳、自立活動で人権学習。(中)道徳の時間で人との関わり方に重点を置いた人権学習。(高)HRと自立活動で人権意識を高めた。【○】 ウ 6月・1月に生活⑦を実施。必要な生徒には丁寧に聞き取り対応した。【○】</p> <p>(3) ア (幼)(小)「歯磨き講座」10月実施。(小)「薬の正しい使い方講座」10月実施。(中)「薬物乱用防止講座」2月実施予定。(高)「依存症防止講座」2月実施予定。【○】 ア 中学部生徒会が幼稚部・小学部それぞれに手洗いうがいの保健教育を実施。第63回大阪府立学校保健研究発表大会で発表。【◎】 イ 緊急シミュレーションを計7回実施。教員の実践対応力を高めた。2名が応急手当普及員講習を受講し救命講習会講師資格を取得。【○】</p>
2	子どもたちの学ぶ力の育成とキャリア教育	<p>(1) ア 社会貢献やSDGsの視点も踏まえた活動に取り組み、社会性や物事を多面的多角的に捉える力を育む</p> <p>イ 交流及び共同学習の充実。校内での学部をこえた交流学习の実施。</p>	<p>(1) ア 各部の取組みを充実・発展させ、学期ごとに取組み内容を確認する場を持つ</p> <p>イ 学校間交流を継続、充実 [7回] 交流先を広げる。</p> <p>イ ☆交流でコミュニケーションロボットを活用</p> <p>イ ☆学部を越えた交流、発表の場3回 [2回]</p>	<p>(1) ア 各部とも取組みを充実させた。(中)ミャンマーへの絵本を届ける活動を行った。2学期末生徒総会にて、学習を通して自己を振り返り、自分のことを語る機会を設けた。(高)ペットボトルキャップの収集を継続し拠点となる事業所に届けた。【○】 イ 居住地校交流は小24回、中4回。(幼)銅座幼稚園と2回(高)福岡高等聴覚、咲くやこの花高と各1回(小)3校交流会2回 玉造小と(中)上町中と2回 北視覚支援と交流。中学部生徒会は熱中フォーラムに参加。交流校が増え、障がいに関わらず交流し、コミュニケーション能力・表現力・他者理解を高めた。【◎】 イ (小)奈良ろう学校とコミュニケーションロボットを使って交流した。【○】 イ 運動会で複数の部の合同競技を行い、交流を深めた。(中)中学部生徒会で幼稚部と小学部にそれぞれに手洗いうがい指導の劇発表。【○】 教室設置や体育館のプロジェクターの活用で、</p>

府立中央聴覚支援学校

	<p>(2) 「わかる授業づくり」による基礎学力の定着。知的好奇心を刺激し、子どもたちの学びへの意欲の向上を図る。</p>	<p>ウ 発達段階に応じたキャリア教育に取り組み、卒業生や卒業後のロールモデルの方々による進路講演会等を行い、将来像を豊かにする。</p> <p>エ たよりや通信の発行。キャリア教育プログラムやキャリアパスポートを活用し、保護者理解を深める。</p> <p>(2) ア ICT 機器等の活用や丁寧な指導で、「見てわかる」授業を進める。外の世界とのつながりを推進する。</p> <p>イ 外部人材等を活用した専門的な講座等で学びへの意欲の向上を図る。</p> <p>ウ 中央図書館と連携し読書活動推進。</p> <p>エ 作文や作品応募、各種検定へのチャレンジを支援する。</p>	<p>イ 交流・発表の子ども⑦充実度 80%以上 [80%]</p> <p>ウ 卒業生や外部人材を招いた講座を実施</p> <p>ウ 講演会後の子ども⑦充実度 77%以上 [77%]</p> <p>エ 懇談でキャリアパスポートやキャリア教育プログラムを活用する。</p> <p>エ (自)保護者「理解が深まった」77%以上 [77%]</p> <p>(2) ア (自)児童・生徒及び保護者の「わかる授業」肯定率 80% [79%]</p> <p>イ 国際理解教育や科学の出前授業等実施</p> <p>ウ 中央図書館との連携し読書活動の充実 絵本の読み聞かせ年 4 回 [4 回] 団体貸付年 1 回 [1 回]</p> <p>ウ 新規図書購入を計画的に継続する</p> <p>エ コンクールの応募、漢検・英検・パソコン検定等へのチャレンジ率を増やす</p>	<p>視覚支援の活用がしやすくなり、子どもたちの発表もより伝わりやすくなった。</p> <p>イ 子ども⑦肯定 81% 【◎】</p> <p>ウ (小)卒業生による進路講演を実施。(中)進路講演会 3 回マナー講座 1 回⑦60%、先輩ろう者による講演会 1 回、卒業生の講演会 1 回。(高)ユニバギャザリングを実施。2 月に先輩ろう者を囲む会実施予定。さまざまなロールモデルを活用し将来像を豊かにした。【○】</p> <p>ウ 子どもアンケート充実度 82% 【◎】</p> <p>エ 全校キャリア通信(各学期発行)で情報提供。懇談等でキャリア教育について話をするなど伝える機会を増やした。【○】</p> <p>エ 保護者⑦77% 【○】</p> <p>(2) ア(小中)ほぼ全ての教科で ICT を用いた授業を行い、視覚的支援に富んだ学習を行った。(高)タブレットの活用が増えた。(自)児童・生徒及び保護者 82% 【○】</p> <p>イ(小中高)T-ネットを活用し、外国人講師と実践的な英語学習を実施。科学の出前授業。社会科で読売新聞社の出前授業実施。【○】</p> <p>ウ読みみかせ 4 回実施(幼 1 回、小 3 回)、団体貸付 1 回(特別貸出セット)、公立図書館と学校との合同研修オンライン受講 2 回 読書活動の推進につながった 【○】</p> <p>ウ新規図書を計画的に購入した。読書週間や教職員・児童生徒による本の紹介等で、読書活動が広がった。</p> <p>エ(中)作文コンクール・詩のコンクール・読書感想文に応募し、全国聾学校作文コンクールでは佳作を受賞した。漢字能力検定を実施し、6 名受験。4 名合格(合格率 66%)。英語能力検定を実施し、3 名が英検 3 級合格。チャレンジ率(第 1 回 6%→第 2 回 32%→第 3 回 16%)</p> <p>(高) 全国聾学校絵画展に応募し、佳作</p> <p>(小) 漢字検定(中高) 英語能力検定 【○】</p>
<p>3 教員の専門性の向上</p>	<p>(1) 研修や校内研究を充実させて、教員の専門性の向上。</p> <p>(2) 1 人 1 台端末の有効な活用。ICT 活用のための教職員研修を行い、活用に関わる知識や技能を向上。</p>	<p>(1) ア 教員の専門性、資質の向上のため、計画的に研究会や研修を実施</p> <p>イ 研究保育・研究授業、相互授業見学を充実し、授業力向上を図る。</p> <p>ウ 外部研修や公開授業等への積極的な参加と参加後の情報共有</p> <p>エ 外部の教育実践を参考に、観点別評価について必要な改善を継続。</p> <p>オ 自立活動プログラム見直し 3 年間</p> <p>(2) ア ICT 活用力向上研修を計画的に行う。</p> <p>イ 学習支援クラウドサービスの活用で子どもの学びを支援する。</p> <p>ウ 外部研修や公開授業等に積極的に参加、ICT 活用力向上を図る。</p>	<p>(1) ア 左記を基にした研究会や研修会を 3 回以上実施し、教員⑦肯定率 80%以上 [80%]</p> <p>イ 指導案や研究討議の質的向上をさせた、研究保育・授業を 8 回実施。[8 回]</p> <p>☆ICT 等を活用した研究授業を 4 回行う。</p> <p>イ 相互授業見学を 1 回以上実施した教員の割合 [65%]</p> <p>ウ 全日聾研奈良大会へ 6 名参加し情報共有 実績</p> <p>エ 観点別評価の見直し 成果物を実績とする</p> <p>オ R 5 は課題の明確化と共有 重複生用の立案</p> <p>(2) ア ☆情報教育部と研究部が協力して活用力向上の研修を 3 回行う</p> <p>イ 学習支援クラウドサービスの活用 実績</p> <p>ウ 外部研修等への参加と全体への共有 上記の取組みで</p> <p>☆(自)教員の ICT 活用力の肯定率 80% [78%]</p> <p>☆(自)子ども ICT 機器活用肯定率 86%以上 [86%]</p>	<p>(1) ア全校研修「個別最適な学びと協働的な学びの基盤としての情報端末・クラウド活用」では、先進校の授業動画等で個別最適な学びの具体例を学んだ。中・高「きこえない・きこえにくい子どもの授業づくり (ICT 機器活用)」幼・小「聴覚障害者の言語、思考、感性の発達を考える」を実施。寄宿舎研修は 8 月に実施。教員⑦肯定率は幼小 94%、中高：87%、全校研修 91% 平均 91% 【◎】</p> <p>イ幼から高併せて研究保育・授業を 14 回実施。その内 ICT 活用の研究保育・授業は 9 回実施。フィードバック用紙やビデオ撮影等により振り返りを行った。【◎】</p> <p>イ各学部で相互保育授業見学を実施。相互見学をした教員は 71% (2 月末まで実施) 【◎】</p> <p>ウ全日聾研に 15 名の教員が参加し、5 名が発表を行う。3 月に報告会を実施。【○】</p> <p>エ観点別評価の実施状況把握・勉強会を行った。【○】</p> <p>オ現在の自立活動プログラムの課題を検討し、他校の自立活動関連資料及び、本校の重複生用実践事例を収集している。【△】</p> <p>(2) ア ICT 教育研修を 1 回、オンラインで ICT 活用力向上研修を 2 回実施。【○】</p> <p>イ学力状況調査(中 3)の一部を MEXCBT で実施。中学部 5 教科にて MEXCBT 試行。小中高で学習支援クラウドサービスを活用して課題のやり取り。【○】</p> <p>ウ ICT 研究協議会、オンライン研修(著作権)、文部科学省のギガスタメルマガ購読で得た情報を研修で共有。全日聾研報告研修 【○】</p>

## 府立中央聴覚支援学校

	(3) 校務の効率化と働き方改革。多様性を認め合い、いきいきと働ける職場づくり。	(3) ア ICTの活用で校務の効率化。 イ 業務の見直しにより業務量の偏りを減らし長時間勤務縮減に取り組む。	(3) ア 保護者宛文書やアンケートの電子化、欠席連絡や健康観察の電子化により業務軽減を図る 実績 イ 時間外勤務時間縮減 一人月平均 21 時間[23 時間]	☆(自)教員の ICT 活用力肯定 78% ☆(自)子ども ICT 機器活用肯定 79% 教員及び生徒とも「前年度より」という比較にしたため肯定率が減少したと思われる。実際の活用は増加している。【○】 (3)ア 職員朝連絡を個人情報の取扱いに注意しながらクラウドサービスや共有フォルダで実施。さくら連絡網で出欠確認・電子版でプリント配付・保護者連絡を行う。【○】 イ 定時退庁日(火曜・寄宿は金曜)呼びかけ。時間外勤務 45 時間以上の人数は、昨年度比 1 割～2 割減少。時間外勤務 20 時間【○】
4 セン タ ー 的 機 能 充 実 と 開 か れ た 学 校	(1) 多様な相談に対し適切な支援。連続性のある学びの場の確保。  (2) HP や研修、相談支援などを通じて、聴覚障がい理解の啓発活動を推進する。  (3) 防災の取組みについて地域の学校園等と情報交換し、連携を強める	(1) ア 聴覚支援センターとして、地域の学校園及び保護者からの相談に応じる。 イ 通級による指導で学習効果を上げ子どもたちの自信や意欲の向上。  (2) ア 地域の教職員対象の研修会を実施、指導・支援の充実を図る。 イ みみネット等の情報発信を続け、聴覚障がい理解の啓発活動を推進  (3) ア 災害時の校内連絡体制や日常の災害対策、生徒主体の安全活動等を情報交換し、連携を強める。 イ 外部人材を活用し、より高い安全教育活動を推進する。	(1) ア 支援校の終了後の⑦で、「ニーズに応じた相談」肯定率 95%以上維持 [100%] イ 終了後の子ども⑦肯定度 80%以上 [80%]  (2) ア 研修会を 3 回実施する [3 回]  ア 参加者の⑦で、肯定率 95%以上 [100%] イ みみネットで情報発信 10 回以上 [11 回] イ 聴覚障がい理解や支援の情報を HP で公開する  (3) ア 他校への視察・情報共有により、本校の被災時体制の改善を図る。 実績  ア 地域と連携した避難訓練、2 次避難場所確保 イ 消防署や警察署と連携し、災害時の対応について子どもたちの理解を深め、緊急時の体制を更に強固なものにする。 実績 イ 防災等の取組みを校外へ発信する。	(1) ア 201 件の支援を実施⑦肯定 100%【○】  イ 通級の子ども⑦肯定 100%【◎】  (2) ア 「聴覚障がいのある幼児・児童・生徒を担当する教員研修」「養護教諭セミナー」計 48 名。「みみねつとアカデミー」14 名 ア参加者⑦肯定 100%【◎】 イみみネットで情報発信 11 回、過年度の内容一覧を HP で公開。HP に手話動画を掲載。文化祭「きこえない」を知る二日展を実施【○】  (3) ア さすまたの使い方等の講習や研究会の内容を担当者で共有。今後、校内に周知していく。災害時の対応等について宮城県立聴覚支援学校を視察し、情報交換を実施。【○】 ア 南大江地区の防災訓練に参加。【○】 イ 中央消防署と連携し、煙中体験・消火体験(5月) 大阪東警察と連携し、教員の実践的な防犯訓練の実施(8月)。【○】 イ SPS 通信を年間 6 回発行し、HP にも掲載。【○】